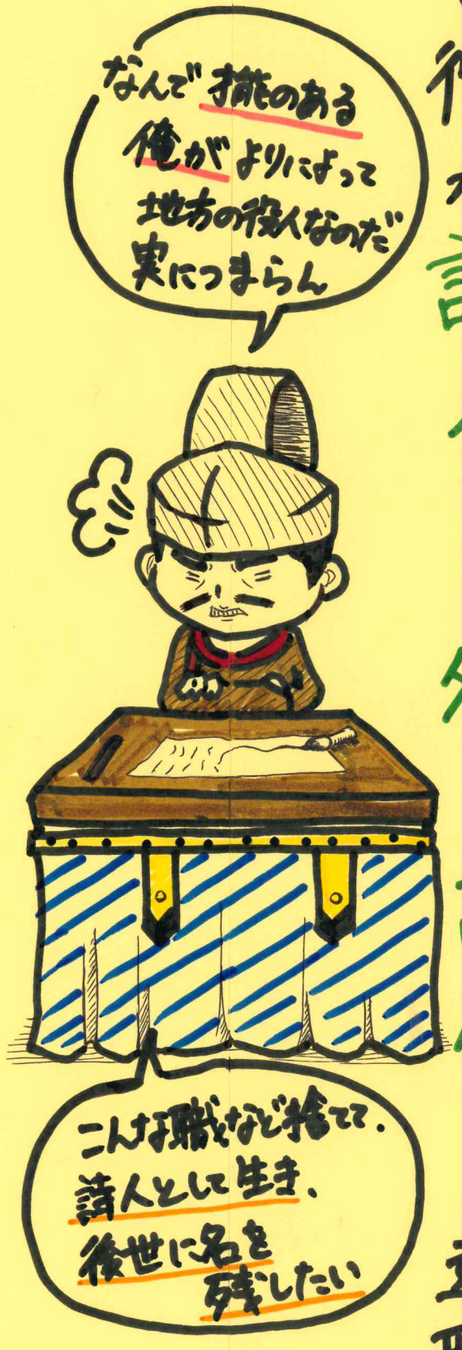
日本文学をさくっと紹介

山月記

舞台は中国、唐の時代。(日本だと飛鳥・奈良時代あたり)
この物語の主な登場人物は「李徴(りちょう)」と、その友人「袁傪(えんさん)」。
当時、とてつもなくキツいと言われていた科挙という試験に二人とも合格し、役人としてエリート街道まっしぐら…のハズだったのですが。

山月記は一九四二年(昭和十七年)に発表された短編小説。作者は中島敦。これがデビュー作。中国の説話集にある「人虎伝」を独自にアレンジしたものとなっている。

李徴が詩人として名を上げたい、と退職



しかし、上手くいくハズもなく、お金に困った李徴は結局、地方の役人に逆戻り。いざ戻ってみると同期で役人となった人たちは上の役職になっていた。元同僚からの命令を聞かされることなどに不満をつのらせていきました。

そしてある日、彼は出張先で発狂

ぎゃあああああああ

そして、一年後 李徴が消息を絶った地に今度は袁傪が仕事で通りかかります。すると、草むらから一頭の虎が…!! あわや食べられる、ところで虎は再び草むらに隠れました。

なんと、この虎が李徴だったのです。

…と思ったら。

再会を喜ぶ袁傪とは反対に虎の姿を見せたくはなかったと、嘆く李徴…。

彼は何故 虎になってしまったのか? 虎となった彼が思うこととは…?

——気になる人は是非読んでみてね